

A 項 近況報告書 (2011 年度助成者)

作成平成 23 年 11 月 6 日

氏 名	長井 俊志
研修先機関名	Henry Ford Hospital, Transplant Institute
<p>この度は助成頂き誠にありがとうございました。Henry Ford Hospitalでの移植外科フェローシップも4ヶ月を終え最初のローテーションである腎移植が終了いたしましたので、近況をご報告させていただきます。開始当初はシステムの違いやコミュニケーションで戸惑う事も多かったのですが、4ヶ月経過しずいぶん軌道に乗って参りました。当科でフェローに求められている役割はtraineeという立場だけでなく、residentやPAをまとめて治療におけるリーダーシップを発揮することです。当初は外国人という気後れもあり、これがあまりうまくできませんでしたが、最近では努めて周りをまとめる努力をしております。まだまだ力不足ですが、こうしてアメリカのフェロー達はアテンディングへ向けての自覚と自信を身につけていくのだなと感じております。また手術も早々に術者で腎移植や脳死ドナーの執刀をまかされております。患者管理、手術とも独り立ちしていくための体制が整っており、日本とアメリカの臨床トレーニングシステムの違いを実感しております。</p> <p>日々の生活は想像以上に忙しく、アメリカのレジデント達に定められて週80時間労働の基準も移植外科のフェローには適用されていないので、時に二日徹夜や四夜連続のドナー手術など相当過酷な状況もありました。当科はフェローが各学年一人で計二人しかおりません。そのため少し手術が立て込むとフル稼働になってしまうためです。それでもその分手術の経験は他の施設のフェローと比較してもずいぶん多く積めますので、大変充実したトレーニングを受けることができしております。</p> <p>今回助成を頂いたおかげで生活の方もずいぶん余裕をもってスタートすることができました。デトロイトの治安上病院周辺には住めない(家族の安全、子供の教育を考えると)こと、などもあり現在は車で15分ほど離れた所に住んでおります。そのため自分用、家族用に2台車を購入する必要があったのですが、その際もこの度の助成のおかげで大変助かりました。誠にありがとうございました。家族と過ごす時間が少ないのその点は少々心配ですが、今のところ妻も子供もアメリカ生活を楽しんでおります。まだ2年のうちの4ヶ月が終わったばかりでまだまだこれからではありますが、ぜひよい経験を持ち帰り将来アメリカで臨床留学を志す先生方にフィードバックができればと考えております。</p>	